

# おかげさまで 国語

題字  
国語部長  
牧野 守先生



岡崎市現職研修委員会  
国語・書写部

令和3年11月22日(月)  
第2号

## 取扱説明書

現職研修委員会国語部長 磯村 彰久

この前見かけた何かの雑誌に、「取扱説明書」はあんなにつまらない文章なのに、一生懸命読んでしまう、と書いてあった。その一文を読みながら、「ううん」とうなっていました。

考えたのは二つのこと。

一つ目は、国語の学習にとどまらず、学ぶことには、つくづく「必要感」が大事だということ。あんなにも無味乾燥な「取説」なのに、必要に駆られるから、なんとか必死に読み取って、高い金を払った電化製品が使えるようになるとうとする。やはり、学ぶには、必要感の有無が大きいのである。

二つ目は、取扱説明書を読み取る力と書く力である。

この前、某ショッピングモールで、壁に取り付ける棚を買った。玄関を入れてすぐの壁に、嫁のコレクションの人形を飾るためだ。早速、組み立てようと、段ボール箱から部品と取扱説明書を取り出した。取扱説明書とのにらめっこが始まった。取扱説明書のとおり

に組み立てて、壁に取り付けた。よし、できたと、その棚の上に人形を置いた。しかし、その瞬間、悲劇が起きた。なんと棚が壁から滑り落ちて、嫁の大切な猫の置物の耳が欠けてしまったのだ。その後、嫁からなんと言われたかは想像に任せるが、夫の立場としては、かなり辛いものとなった。

簡単に言くと、壁に取り付けた

金具の上下が間違っていて、しっかりとはずれず、滑って落ちてしまったのだ。これは、磯村の取扱説明書を読み取る力が欠けていたのか。それとも、分かりやすく説明する文章になっていなかったのか。後で読み直してみると、磯村に読み取る力が足りなかったことが明白となるのだが、心の中では、もっと分かりやすく書いておいてよ、と毒づいた。

さて、取扱説明書というのは、確かにつまらない文章ではある。しかし、主体的に学習に取り組む態度の視点や、正しく読み取り、分かりやすく説明したりする視点では、とても有効な教材になるのではないかとも思った。子供たちの将来を考えると、取扱説明書と付き合う回数、もしかすると小説を読むよりも多い場合があるかもしれない。

大分前の話となるが、OECDの要請で行われるPISAのテストで、

日本の子供たちの結果が良くなく、社会的に大きな問題となった。いわゆるPISAショックである。それ以来、磯村も、物語文や説明的な文章を教材として扱う授業において、言語活動を取り入れた学習に試行錯誤を続けてきた。

大人になってから取扱説明書を書くことは、ほとんどないとは思いますが、それを読み取って、使う場面は日常的にある。また、取扱説明書のように、他の人に分かりやすく説明する力は、誰にも必要である。令和三年度の小学校の学力・学習状況調査では、物語文の問題は一つもなかった。中学校でも、最後に『我が輩は猫である』が少し扱われただけだった。ここから、文部科学省の問題意識がどこにあるかが分かる。もちろん小説を読むことで、人生を豊かにすることができるとは分かっている前提として。

壁の前で取扱説明書を読み直し、落ちた棚をもう一度取り付けながら、取扱説明書を使った授業を夢想する磯村であった。



「文集おかげさき」作文審査会

九月七日に予定していた「第二

回 国語主任会・作文審査会」は、愛知県の緊急事態宣言延長を受け、Teamsを使ったオンラインでの作文審査会となりました。九月二十二日（水）に、Teamsで学年ごとの会議室を開き、各学校の国語主任の先生方をつないで、挙手マークや掲示板のチャット機能を使って意見を交わし合いました。初の試みでしたが、国語主任の先生の御協力により、スムーズに審査を進めることができました。同じ作文を読み、評価について多くの先生方と意見を交わすことは、「作文を見る目」を鍛えることにつながります。「作文を見る目」は、作文を指導する力になります。おかげさきの子が作文を通して、日常の出来事を細やかに見つけ、認識を深めていくことができるよう、作文審査会を今後も大切にしていきたいものです。



作文のよさについて、真剣に審議する先生方

「文集おかげさき第59集」

注文のお願い

文集おかげさき第五十九集

多くの「購読を

自分の日常に起きた出来事を見つめ、考えを深めた作品など、岡崎市全小中学校の児童生徒の作文・詩・中学生の主張コンクール意見文・市書き初め展入選作品等、優れた作品が数多く掲載されています。

〈価格〉九〇〇円

〈問い合わせ先〉

細川小学校 内藤 利江子

〈注文締切〉

第一次 令和三年十二月三日

第二次 令和四年一月二十一日

岡崎市小中学校書き初め展

優れた諸作品の鑑賞を通して、書写技能を高めることができるように、岡崎市全小中学校の児童生徒の代表作品を展示します。

〈会期〉令和四年一月十五日（土）

～十六日（日）

午前十時～午後六時

最終日は午後三時半まで

〈会場〉岡崎市美術館



授業力・教師力アップセミナー

「基礎編」

研修①では、「説明的文章の指

導（基礎・基本）」と題して、山田禮子先生の御指導の下、小学校第二学年の「たんぽぽ」を教材に、「読むこと」の領域の学習法について学びました。

また、研修②においては「書写の授業の在り方」と題して、実技研修を交えながら高橋由美子先生に毛筆指導のポイントについて教えていただきました。自分の書と向き合い、指導の方法を学ぶことができました。

【参加者の声】

・説明的文章の単元では、筆者の述べ方を学び、それに対しての意見や感想をもたせ、学習課題とつながるように授業を展開していくことが重要だとわかりました。

・高橋先生のお話の中でいちばん印象に残っている言葉は、「文字を見る目を育てる」という言葉です。文字の特徴を自分で見つけることが大切だとわかりました。

教育研究愛知県集会

十月十六日（土）に、「教育研

究愛知県集会」が、WEB形式で開催されました。岡崎市からは、左記の先生方が実践を発表するとともに、他地区の実践を知ること、見識を深めてくださいました。

国語（文学）

- ・生駒 大典先生（六名小）
  - ・石田 勝重先生（六ツ美中）
- 国語（作文）
- ・前田 春輝先生（矢作北小）
  - ・太田 秀実先生（矢作中）

【参加者の声】

今年度は、ZOOMによるWEB形式にて開催されました。分科会では、四つの討論の柱が設定され、提案・討論が行われました。討論では、他地区の先生方が実践されている取組を知ることができ、たいへん勉強になりました。良い刺激をたくさん受けたので、今後の自分の実践に力を入れて取り組んでいきたいと感じました。

（六名小 生駒 大典先生）